

★ 中晩生水稲及びナスでのミナミアオカメムシの発生に注意！！ ★

8月中旬に行った巡回調査の結果、山城地域のナスでミナミアオカメムシの発生を確認しました。

また、ミナミアオカメムシの京田辺の予察灯（20Wブラックライト）への誘殺は、5月中旬から確認しており、誘殺数（平成23～26年までの年間合計値）は近年増加傾向にあります（図1）。

今後はイネでは出穂から収穫期まで、ナスでは収穫期後半まで発生が続くことが予想されますので、本種の発生を確認したら薬剤などで防除を徹底しましょう。

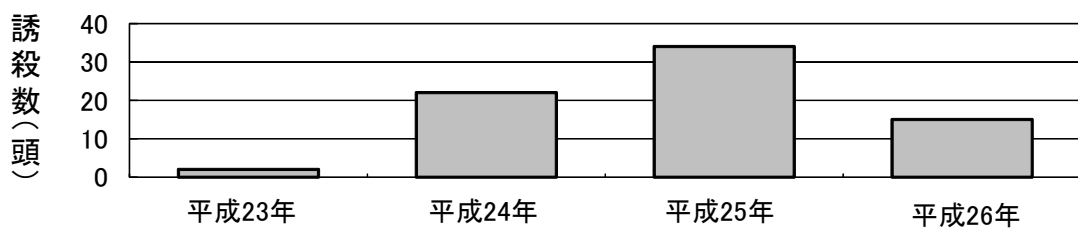


図1 ミナミアオカメムシの予察灯（20Wブラックライト）への誘殺数（京田辺：4～11月の合計値）

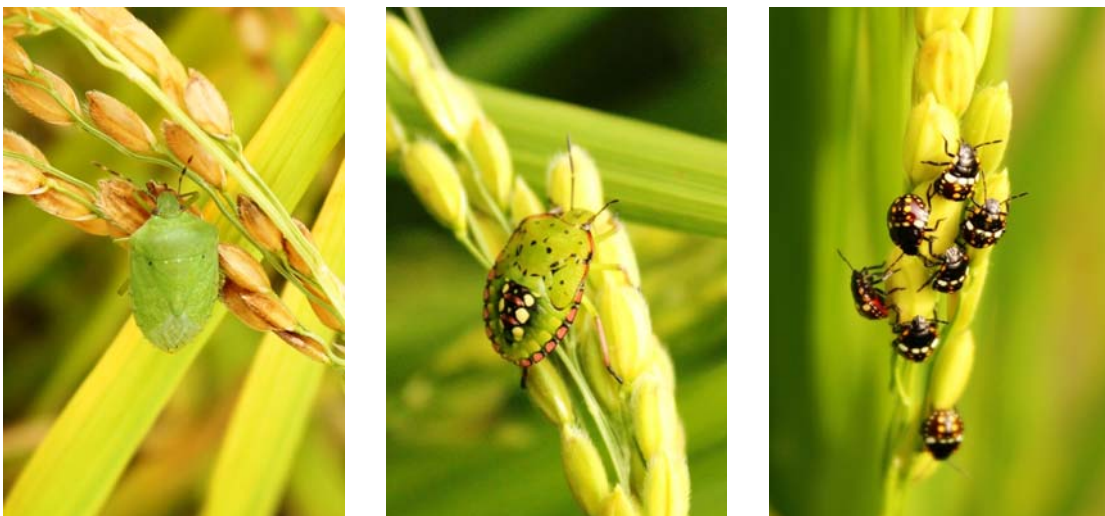


写真1 ミナミアオカメムシ成虫（左）、終齢幼虫（中）、中齢幼虫（右）

☆ 防除上の留意事項 ☆

(1) 耕種的防除

ミナミアオカメムシはヒユ科、イネ科雑草の種子を餌にする。したがって、ほ場周辺の生息密度を下げるためには、ほ場周辺の草刈りを必ず行う。イネでは出穂の10日前までに済ませる。出穂期に近づきすぎたから行くと、かえってミナミアオカメムシを水田に追い込み、逆効果となる。

(2) 農薬による防除

イネでは、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

本種の成虫に対しては、有機リン剤（スミチオンなど）、合成ピレスロイド剤（トレボンなど）、ネオニコチノイド剤（スタークル・アルバリン、ダントツなど）、フェニルピラゾール剤（キラップ）の殺虫効果が高い。

ナスでは、本種の発生を確認したらナスで登録のある薬剤を用いて防除する。

なお、農薬の散布に当たっては、普及センター、農協等と相談し、周辺作物に飛散しないよう使用基準を遵守して適正に使用する。

最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録 情報検索システム」を参照のこと。

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

(3) ミナミアオカメムシは他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので注意する。



写真2 ミナミアオカメムシの吸汁加害による斑点米粒

<参考>

京都府奨励または認定品種

中生品種：日本晴、祭り晴、京の輝き、祝、カグラモチ、新羽二重糯

晩生品種：ヒノヒカリ